



庭并家存也
下人加の
茶紙
紙

寛政九

13
2946
116



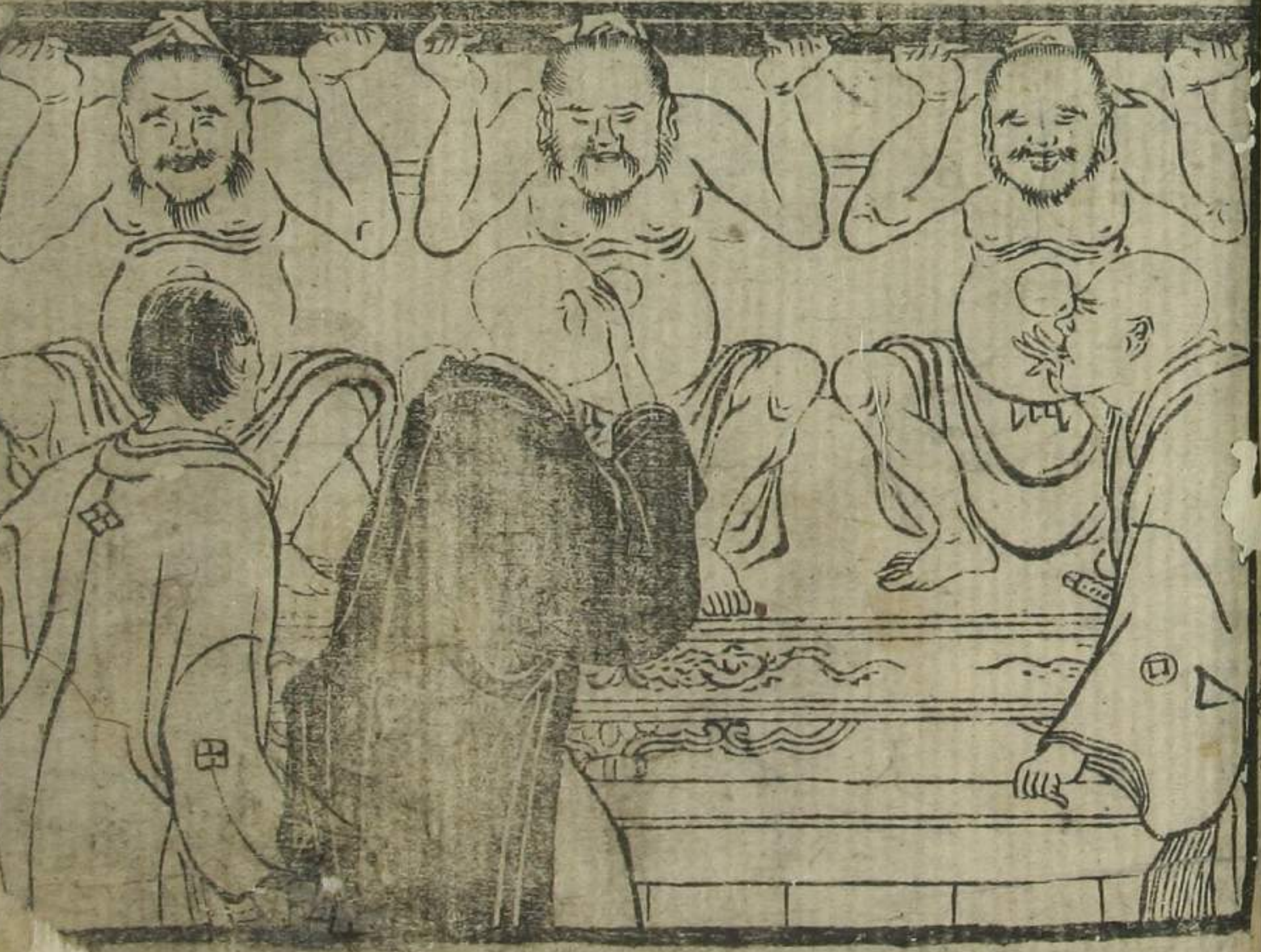
特
へ13
2946
116

荆林正は茗戰あり。本邦は茶湯の唐の張翥著
 茶品と論ひ余好む野茶と飲又好む唐茶と不朝茶
 夕茶は換馬と戯作の草稿も我々人と茶をすむ人
 又我々茶をく閩甘茶は挽茶は後趣向は古手返の
 茶染ても人の氣と汲し珍物茶話茶程の外題の有な
 書ね損ぢやと薦られ舌茶應茶も聽はるるやま
 種本の茶はむらや。宇治くさね板元や。つらや
 へらや。くもや。せがま。阿部茶。茶別。何れも
 りる。蒲久保ら。茶を茶表帛口拍子出。黄表衣
 紙茶。藤色。茶。や氣。茶碗。茶。

寛政己の孟春

曲亭馬琴言

此の山は... 山脈... 川... 肉...
 此の山は... 山脈... 川... 肉...
 此の山は... 山脈... 川... 肉...



此の山は... 山脈... 川... 肉...
 此の山は... 山脈... 川... 肉...
 此の山は... 山脈... 川... 肉...



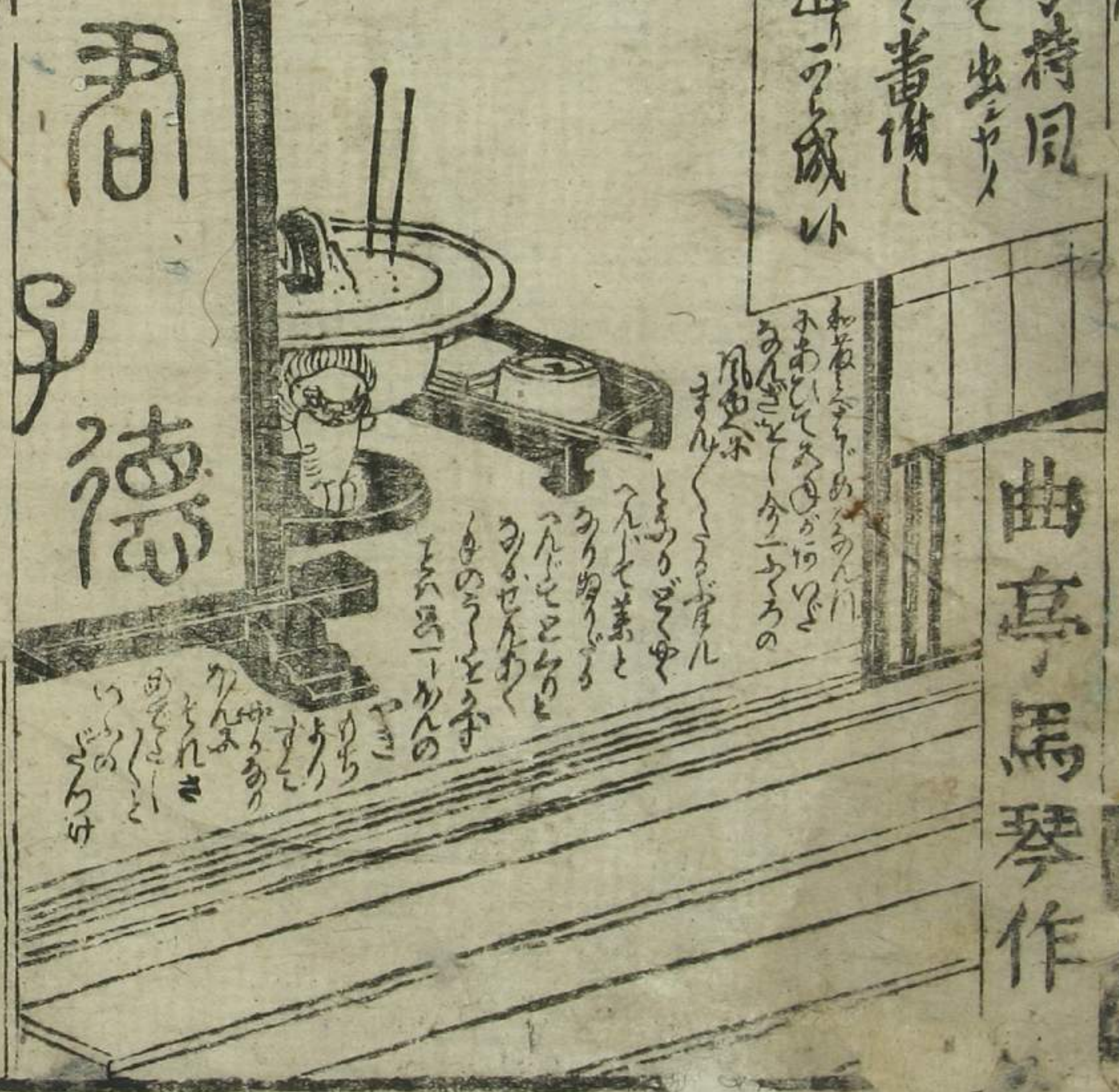
此の山は... 山脈... 川... 肉...
 此の山は... 山脈... 川... 肉...
 此の山は... 山脈... 川... 肉...

二のり

曲亭馬琴作

朝護のゆ子持目
朝四時まで出せり
乙合ひきり書備し
乳頰山通り成小

朝護のゆ子持目
朝四時まで出せり
乙合ひきり書備し
乳頰山通り成小
ありてはしるのゆきうて
尾中うとひしをまかすはれは
一五のあひんをこれあはれい
風うのあはれこれまて
まろぬまがじりるゆか
不器十圓の金ふらふれぬ
我れくとりのゆか及ふ門の
まひんひきりまて
うそひるゆか及ふ門の
風うのあはれこれまて
まろぬまがじりるゆか
不器十圓の金ふらふれぬ
我れくとりのゆか及ふ門の
まひんひきりまて
うそひるゆか及ふ門の



香子徳

此賣吉次

て以物所用ん

お茶をうたあめん川
小あしてふゆがけり
あんきと今一やうの
ゆか
まろぬまがじりるゆか
不器十圓の金ふらふれぬ
我れくとりのゆか及ふ門の
まひんひきりまて
うそひるゆか及ふ門の

